

CONTENTS

① 認証審査の最近の動向

② MICニュース

MoodyMarineによるMSC認証
QS9000認定機関による現場での立会検査
information

③ 連載よみもの

MICリレーエッセイ
連載読み物「環境とISO14001」

④ 審査の現場から

お客様紹介
(株式会社原田組)
新連載「QC7つ道具」

⑤ お客様からのお便り

五島列島から
(株式会社三浦組)
「環境は経営である」との真髄
にふれて(藤電機工業株式会社)

⑥ 研修コースのご案内

ちょっといっつく
コースのご紹介/受講生からの
お便り

ISO9001 / 14001 認証審査の最近の動向

MIC 営業部 企画部長 椎名 洋一

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(MIC)は、昨年8月、ISO情報専門誌「アイソス」による『審査機関格付けアンケート』において、総合2位にランクされ、引き続き本年3月には、ISO9001の累積認証数1,551件の実績をもって、国内65審査機関中、はじめてトップテン入りを実現できました。

一方、審査総契約数(ISO9001、14001ほか)においては、2,200件を越えようとしております(6月現在)。これもひとえに皆様方の貴重なご協力による賜物と感謝致しております。

日本国内のISO9001/14001認証の全般的な状況としても、依然として増加の状態にあります。以下、弊社の最近の状況をご説明させていただきます。

1. ISO14001が伸びてきている

1997年の京都議定書採決以降、官民上げての環境指向が活発化してきておりますが、ISO14001審査にも本格的な動きが現れてきております。弊社においても、ここ3年前より倍々で環境審査が急激に増えてきております。もちろん絶対数ではISO9001には及びませんが、底硬い上昇を持続していくものと推測致します。特に製造業、建設業、サービス業はもちろん、官公庁、自治体、教育、福祉関連等の環境活動に拍車が掛かり、さらなる拡大が期待されます。

2. 複合審査が徐々に増えてきている

ISO9001とISO14001、あるいはISO9001・14001・OHSAS18001の3規格を同時に審査する複合審査が急激に増えてきております。複数の規格の共通部分を同時に審査できるため、時間および経費の削減が可能となります。特に、審査料金については、単独での合計金額より20-30%安くなり、大きなメリットを期待できます。

3. 審査機関変更が増えてきている

他審査機関より、弊社MICへの審査機関変更が、昨年より急増してきて来ております。変更理由としては、「費用が高い」「利益につながる審査とは言い難い」「いまだに細かい指摘が多い」「支払う金額と比べそれだけの価値があるとは思えない」等が実際に挙げられています。審査機関の競合もいよいよ激しくなっており、すでに審査機関の自然淘汰が始まってきております。

4. MICの対応

MICは、当初より、“お客様の、お客様による、お客様の為の審査”をモットーに、

- SIMPLE—単純明快な審査
- LOW COST—お客様を考慮したリーズナブルな価格
- HIGH QUALITY—“Yes” or “No”の適合性審査だけでなく、お客様に儲けて頂くための審査(付加価値審査)を心がけてきております。

今後とも、MIC審査員及び社員一同、引き続き上記を念頭に、改善・改革を継続して参る所存でおりますのでよろしくごお願い致します。尚、勝手なお願いではありますがお知り合いのISO9001、14001等のお客様をご存知でしたら、弊社営業部宛ご紹介願えれば幸甚に存じます。

最後に皆様方のさらなるご繁栄とご健勝を心よりお祈り致します。



発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪ビル13階
TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

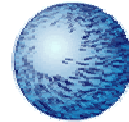
Moody Marine-南アフリカのタラをMSC認証

海洋生物資源の認証を行うMICの部門、ムーディー・マリンは、持続可能な漁業に関する認証制度を運用しているNPO、海洋管理協議会(MSC)が定める環境基準に適合したとして、南アフリカのタラのトロール漁業に対する認証登録を行いました。

MSCは、乱獲による世界の海洋資源の枯渇を防止し、水産資源の持続的利用を促進することを目的に、世界自然保護基金(WWF)と水産資源の世界最大バイヤー、ユニリーバによって1997年に設立されたNPOで、持続可能な漁業についての環境基準を定めています。この環境基準を満たしているかどうかの認証を行うのは、MSCが認める独立の第三者機関であり、ムーディーは1999年からムーディー・マリンの部門を通して、この取組みに参加し、MSCに認定されています。

この認証システムでは、MSCの基準を満たしていると認められ、トレーサビリティに関する調査にパスすると、製品にMSCのエコラベルの表示が認められています。

このMSC認証は、日本では、まだ導入されておらず、認知度も低いですが、水産物輸入国であるわが国にとって、このような世界的動きは無視できない重要なものになってくると思われます。



Moody Marine
certification for the marine environment

Licence Code MSC10123

QS9000認定機関による現場での立会審査

私どもムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(MIC)は、ドイツの認定機関TGAより認定を受け、自動車関連製造メーカーの品質システム、QS9000の審査・認証も行っております。このたび、TGAによる維持審査の一環として、私どものお客様、株式会社柳栄精工様(群馬県桐生市)にて、MICの審査に対するTGAの現場での立会審査が6月初旬に3日間実施されました。



この審査の目的は、審査機関としてのMICがQS9000の審査をTGAの要求事項に従って効果的に実施しているかを確認することにあります。私どもは、この審査に弊社、中国支社よりデビッド=ライ(Mr. David Lai)を招き審査員として派遣しました。認定機関による現場での立会審査というものは、その本質上、二つの審査が重なり合います。すなわち、お客様への私どもによるQS9000に基づく審査と、TGAによるMICの審査が同時に実施されるということになります。いずれも極めて厳しい要求事項ではありますが、両審査とも顕著な問題点の指摘はなく、無事終了しました。ちなみにデビッド=ライは、ISO9001のみならずQS9000、ISO/TS16949:2002の主任審査員でもあり、国際的に活動している審査員です。MICジャパンでも既に7社のQS9000の認証審査を行っております。プロセスアプローチに基づいた顧客志向の審査手法は、今後の自動車産業におけるMICの認証審査に大きく貢献していくものと期待しております。

informatio

WEEE 指令と RoHS 指令

最近業界紙などで、「WEEE」「RoHS」という言葉をよく目にするようになりました。これらは2003年2月に公布されたEU指令で、EU加盟各国は、このEU指令に対応するよう18ヶ月以内に国内法の整備を行わなければなりません。また、投入する製品の廃棄物処理費用を負担することが義務付けられることになりました。

WEEE(Waste Electrical and Electronic Equipment)は、廃棄電気電子機器に関するEU指令で、電気電子機器製造メーカーに対し、ヨーロッパ市場に投入する製品の回収・リサイクル責任を課すものです。これにより、ヨーロッパ市場に投入する製品の廃棄物処理費用の負担が義務付けられることとなります。一方、RoHS(Restriction of the use of certain Hazardous Substances in electrical and electronic equipment)は、電気電子機器への特定有害物質の使用制限に関するEU指令で、鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・ポリ塩化ビフェニール・ポリ臭化ジフェニルエーテルの6品目の化学物質の使用を原則的に禁止するものです。

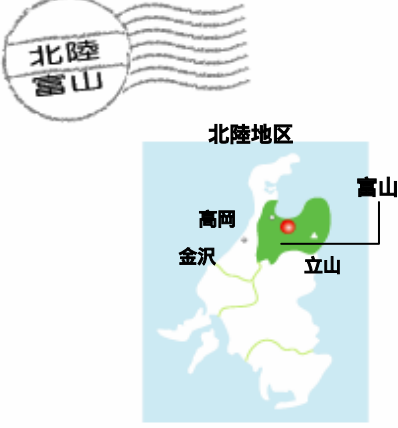
現在、日米欧の環境対策は、化学物質規制強化に動いており、これらEUの環境規制強化の動きも日本で大きく取り上げられ、話題となっています。その要因の一つとして、電子電気機器産業が自動車同様、日本の代表産業であり、多くの企業がEU諸国へ輸出を行っているために、対応を迫られているということが挙げられます。

日本では、原料となる素材・部品を海外調達・生産しているメーカーが多数あり、グリーン調達基準として欧米諸国の基準を採用している企業が多数あります。既に大手電気電子機器メーカーでは、グリーン調達の基準を統一しようと動いており、取引先への規制徹底を始め、指令発効に伴って必要とされる代替物質調達の対応にも動き出しています。

今後、2005年3月13日にWEEEリサイクル義務発生、2006年7月1日にRoHS有害物質規制発効というスケジュールになっています。

MICリレーエッセイ③

今号は、北陸地区富山からのエッセイをお楽しみください。次回は、四国地区愛媛からお届けします。



From 北陸地区担当
辻 誠淳

富山といえば、「立山・黒部アルペンルートに代表される雄大な自然景観」「天然の生簀と呼ばれる富山湾の豊かな魚介類」「米」「日本酒」「鱒の寿し」等の食材、「チューリップ」「高岡銅器（既に認証されたお客様に認証記念の粗品としてお届けしております一輪挿しの置物も高岡銅器です）」等をお楽しみいただけます。

富山の売薬も伝統ある産業です。古くは奈良・平安の時代より都に薬物として献上され、江戸時代には藩政加護のもとに越中売薬として、その商いを全国諸藩に広げておりました。その活動は薬の販売に留まらず、全国各地の名産品の取引の仲介、各地の文化の伝播にまで及んでいたとも言われています。

私の主な活動は、「審査活動」「お客様へのプレゼンテーション」です。

今売薬人として、「MICのISO」「より高いパフォーマンス」をお届けすべく、多くの企業・組織の方々との出会いを楽しみにしています。

連載「環境とISO14001」③

企業を取り巻く環境は日々変化し、環境リスクへの対応が企業にとって欠かせないものとなってきています。益々関心が高まっているISO14001に関する連載の第3回をお届け致します。

第3回 「環境側面とは」

MIC 環境審査部長 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回はISO14001は「環境経営」とは環境保全活動と収益の向上とを同軸で実現させることであり、その実現のためには本業で省資源、省エネルギーに取り組む必要があることを述べました。今後は環境マネジメントシステムの要素について順次解説することとし、今回は、EMS構築上最も大事な「環境側面」についてお話しします。

環境側面とは、ISO14001の規格の定義によれば、「環境と相互に影響し合う組織の活動、製品またはサービスの要素」と説明されております。つまり、組織の活動や製品、提供するサービスの中で、良し悪しを問わず、環境影響を与える要因となるものが環境側面です。

環境影響とは大気系・水系・土壌へ排出される有害な排ガス・排水や、騒音・振動・悪臭のような迷惑物などです。「有害」とはヒトに対してだけでなく、生物・植物などの生態系、時には景観や文化遺産等も考慮する必要があります。また、廃棄物のように処分の過程、あるいは処分そのものが自然に悪影響を与えるケースもあります。さらに、ある種の材料は資源の枯渇に繋がるものもあります。

冷蔵庫の製造工場を例にとってみます。製造工程は、鋼板を切断し、折り曲げ、塗装して筐体を作る各工程、合成樹脂を成形して内装材をつくる工程、断熱用ウレタン発泡体を作る工程、冷凍機等電気設備や電気部品を組み込む工程、フロンガスを充填する工程などで構成されます。それぞれの工程を構成する設備及びその作業は環境影響の要因となるので環境側面になります。冷蔵庫そのものも製品を輸送する過程で輸送車による排気ガスを放出し、販売店で梱包が廃棄物になります。さらに、消費者の手に渡って使用され、電力を消費します。使用を終えた冷蔵庫の廃棄の際には、材料として6価クロム処理したネジや臭素系の難燃剤を含む樹脂が使われていると有害物が発生します。これらは全て環境側面になりえます。

規格はこれらの「環境側面を特定し、著しい環境側面を決定する」ことを求めています。「特定する (identify)」とはゴチャゴチャある中で「これがそうである」と探しあてることを意味し、「決定する (determine)」とはあらかじめ定義された「著しい環境側面」の中身を決定することを意味します。組織は決定された著しい環境側面により、組織固有の環境上の「姿 (aspects)」として、例えば、電力消費型であるとか、歩留まりロスによる廃棄物が多いとか、薬剤が排水溝から公共水路に流出するリスクがあるといったことを認識することが出来るわけです。

著しい環境側面としてリストアップされたもののうち、削減ないしは向上するために取り組む事項は「目的・目標」として取り上げ、現状レベルで維持管理する項目は維持のために「監視・測定」に、汚染のリスクに関するものは「緊急事態への準備および対応」として取り上げ、活動計画の基礎とします。

環境側面の特定は、法規制等の特定とともにマネジメントシステムを運用原理であるPDCAサイクル(計画 実施 確認 見直し)の「計画」を設定する元になる重要な作業です。規格は環境側面を特定し、著しい環境側面を決定する手順の確立を求めています。これについては次回お話しします。

株式会社原田組様は、徳島県美馬郡木屋平(こやだいら)村にある建設会社です。95%が森林という木屋平村は、徳島県の中央部、剣山の北東に位置し、清流「穴吹川」が村の中央を流れるすばらしい景観の中にあります。透きとおった空・水・緑に囲まれ、季節ごとの移り変わりを身体で体験できる、自然に満ちあふれたところ

です。同社は、今年で創業50年目を迎えられ、現在、従業員数20名余りで、公共事業を中心に営まれています。

昨年3月にISO9001を認証取得された後、同社の立地条件から、以前より、「環境問題・環境破壊等について」着目されていた同社社長の強い意気込みで、本年1月、ISO14001をも認証取得されました。「自然保護と開発の調和」という基本理念の下、社長をはじめ、社員全員が、理解し、協力し、よりよい会社にしていこうという気持ちで臨まれ、一致団結した結果が、二つの認証取得に結びついたものと思います。

また、ISO14001認証取得と並行し、平成14年度施工の「穴吹川地区 川上復旧治山工事」が、国有林野事業の平成15年度治山・林道工事コンクールにおいて、四国森林管理局管内で最優秀賞を、さらに、全国では「林野庁長官賞」を受賞されました。

「本工事は、“連続繊維土工”という新規工種を取り入れた山腹工が主な施工内容で、新規工種を崩壊しやすい上部に施工し、下部には萱筋工・グリーンベルト筋工等を施した。現在においても、出来栄は本当にすばらしいと実感し、当社の品質方針の一つである『発注者を満足させる成果品の提供』が出来た」とは、同社の根本長茂社長のお言葉です。

管理責任者の工藤久美子さんは、昨年、大阪でのMIC開催のISO9001審査員コースに参加されました。「ISOを少しずつ知るに従い、興味深いものとなり、もっと、奥を知りたいと思うようになりました。まだまだ、すべてにおいて、未熟ですが、色々な経験の中で、更なる向上を目指して頑張っていきたい」と意欲を語られていました。

今後も、原田組様が、これら二つのマネジメントシステムを同社の益々のご発展に役立てて頂けるものと確信しております。



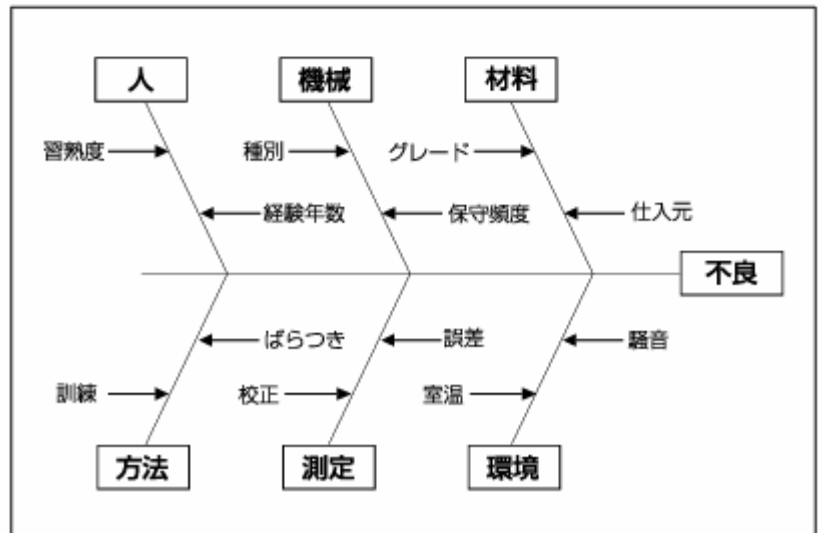
QC7つ道具 その 「特性要因図」



今回から品質管理及び品質改善を実施していくための手法「QC7つ道具」について、一つずつご紹介させていただきます。

「QC7つ道具」とは、製品やサービスの品質が向上するようにデータを整理したり、分析したりするために用いられる手法のことで、(1)特性要因図、(2)パレート図、(3)散布図、(4)ヒストグラム、(5)層別管理図、(6)チェックシート、(7)管理図の7つを指します。まず、第1回目は特性要因図についてご説明します。

特性要因図は、結果とそれに影響を及ぼす要因を魚の骨のように図に表していく方法で、主に問題の原因追求を行うために使われ、英語では図の形から「Fish bone chart」(訳すと「魚の骨図」)とされています。要因の大分類としてよく使われるのは、4Mといわれる作業員 (Man)、設備 (Machine)、材料 (Material)、方法 (Method)の4つです。これらに測定 (Measurement) や環境 (Environment) が加わった場合は、5Mや4M + Eとも言われます。これら大分類の骨の下に、種々の中小の要因を小骨として追記していくことにより、問題の諸原因を明らかにしていきます。これまで特性要因図が使われたことがない方は、ぜひ、原因究明の際にはこれを活用して、更なる品質向上を目指してみてください。



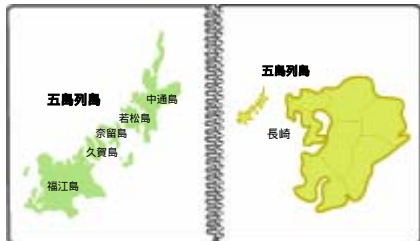


お客さまからのお便り



五島列島から

株式会社三浦組 (ISO9001:2000認証登録)
管理責任者・専務取締役 本山 澄弘



弊社は、長崎県の五島列島の最西端にある、富江町に本拠地をおく土木・建築を主体とする建設業です。

五島列島は、長崎市の西方約100kmの位置にあり、5つの

島を中心に大小140ばかりの島がちなる列島であります。辺境の地であった五島は江戸時代に新田開拓などの目的で多数の開拓移民を受け入れました。このとき、迫害されていた多数の隠れキリシタンが五島にやってきて、やせ地を開拓し、集落を造り、明治以降教会を建てたという歴史があります。今も五島には教会がたくさんあり、五島の一つの風景となっています。現在では、長崎県においても有数の観光地として、夏場になると大勢の観光客が押し寄せ、コバルトブルーに透きとおる海、海岸線に沿って広がる緑したたる自然を満喫し、観光を楽しんでいます。又、5月には、アイアンマンジャパン・トライアスロン五島長崎が開催され、国内はもとより海外から、トップアスリートが参加

し熱戦を展開しています。

五島列島においても、都市部と同様に建設業界にも経済不況が押し寄せ、通年の受注量を確保するのは、大変厳しい状況になってきています。

弊社としても、この厳しい市場の中で生き残っていくには、社内の業務改善が必要であると痛感し、2001年6月よりISO9001取得に向け全社員一丸となって取り組み、2002年2月に取得することが出来ました。運営していく中で、ISOは取得することよりも運営することが大変であると感じ、取得後も勉強会を開き、運営上の問題に対する改善、弊社にとって不都合な点に対する改善策の検討等を常時話し合いながらマニュアルの改訂を展開していきました。

運用2年目になると社員全員のISO9001への理解度も深まり、仕事に対する責任感が表面に現れ、管理責任者の助言無しで、各自が責任を持って取り組んで運営できるようになりました。しかしながら、まだまだISOに振り回されている部分が多く見られます。今後はこのISO9001マネジメントシステムを利用して、社員の資質の向上及び社内の管理能力の強化を計り、会社全体のレベルアップを目標として、取り組んでいきたいと考えております。

「環境は経営である」との真髄にふれて

藤電機工業株式会社 (ISO14001認証登録)
顧問 北山 典男

ある会社の環境認証一次審査に来られていた主任審査員が、プラント・ツアーで材料倉庫、製品倉庫を視察している時に、突然「この会社の環境は××だ」と言い出した。正直に言って「この審査員は何を言い出すんだ。環境の認証審査にきて、××と関係ないだろう。」と思いながら、其の他のプラント・ツアーに随行し書類審査に挑んだ。

書き出しが逆になりましたが、私は、大手電気メーカーを退職し、共栄会社である藤電機工業株式会社の顧問として、環境認証取得を担当しました。大手企業在職中に、環境推進責任者を担当し、環境マネジメントシステム審査員補(A8513)を取得しました。この当時は、如何にして環境マネジメントシステムを運用し、又、省エネ、省資源リサイクル、化学物質管理等々で経営成果をあげれば良いかを考えているだけで、役職とはいえ、真に「環境はこうである」との確たる信念を持った推進では、無かったかと思えます。

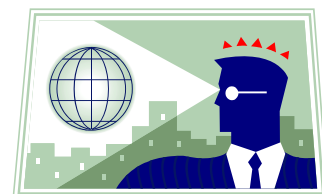
省エネについては、無駄な電燈の削減、点灯時間の制限、電力管理(最大契約電力、電力量、エアコン制御等)、省資源については、リサイクル化を主体に事務用紙、包装材料の再利用による減量化、分別による資源化、設計より見直しによる減容化等々、又、廃棄物の適正管理、分別による有価物化への取り組み、化学物質管理、安全衛生、消防法をも含めた環境法規制の遵守等々、地球環境、地域環境として取り組み事項の多さに、日々没頭し、マニュアル、基準書の遵守改定に邁進していました。

この状態で、共栄会社である藤電機工業株式会社の環境認証取得の為、顧問を引き受け、上記環境推進のマニュアルから基準書、パフォーマンスに至るまで指導して来ました。

話は、本題に戻りますが、私は、大手企業在職中は、大手認証会社2社(共にJ社)しかお付き合いがなく、他の認証会社の

認証審査の進め方は知りません。又、今回の審査のムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(MIC)は、藤電機工業株式会社がパソコンで検索し決定した認証会社なので、「中小企業の認証なのだ。価格が安いほうが好いか。」という気持ちで、合意し、当日を迎えました。

当日一次審査に来られたのが、主任審査員として、同社の社長である坂井主任審査員と、もう1名の審査員でした。当初は、坂井主任審査員が社長であるとは知らず、審査が始まり経営者インタビューも他社認証会社と同様で予測通り終わり、現場審査に向け随行し、環境負荷設備、製造現場の説明も一通り終わり、部品倉庫と製品倉庫に立った時、突然「この会社は、在庫が非常に多い様だ。この会社の環境は在庫削減だな」と言い出した。「確かに在庫は多いが、今は環境審査であり、在庫とは関係ないだろう。これは、営業、購買部門の管理で別に推進すればよいことだ。やはり、あまり名の知られていない認証会社だな」と、その時の印象でした。それから、書類審査に入り、環境側面抽出の説明時に、「何故、在庫を挙げないのか?」と、問われ、「またか」と内心思っていた時、「在庫が多いということは、経営を圧迫しているし、又、資源の無駄遣いをしているのではないか。天然資源で水、紙、石油製品、金属材料と個別に出すのも良いけれど、出来てしまった在庫は、資源が眠ったままになっているではないか。」と、言われた時、私は「はっ」と感じた。今まで、他認証会社で審査を受けた中で、淡々としてマネジメント・システムが運用、改善されているかだけの審査に対し、坂井主任審査員は本当に環境が経営に結びついているかを

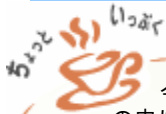


考えて、審査している人なんだな。」と、素直な気持ちで、その指摘事項を取り入れ、以降、藤電機工業株式会社の指導にあたっている。

その後、インターネットで、MICのホームページを閲覧した時、坂井主任審査員が社長であられることを知り、社長の目から見た審査してくれたのだなと、基本理念である『小規模企業に付加価値をもたらす審査登録機関』を実践している社長だなど、

つくづく感じました。

以降、他社、環境での集まりに出席するごとに、私は坂井社長が言われた在庫について述べ、又、環境認証審査は、環境だけではないですよ、その会社に如何に役立つかを審査してくれる認証会社もあるのですよ、と説いて、私の環境についての一つの考えとして進めています。



今回は、ISOのお話から少し離れて、富山の薬にちなんだお話をひとつ。奈良時代、正倉院は薬物も所蔵していたそうですが、その中には石薬（鉱物薬）も多くあり、その内、強壮剤として使用されていた五石散という薬は、いわゆる麻薬のようなものだったそうです。服用すると、「散発」という状態、つまりすぐ効果が出て体が温まってくるらしいのですが、この散発がないと毒が体にこもって死ぬとされていたため、散発を促進するために歩き回ったそうで、これが散歩の語源と言われているそうです。

研修コースのご案内

MICでは、これから認証取得を希望される企業や、既に導入され、さらに効果的な運用を目指す組織の皆様方、また、資格取得を目指しておられる個人の方にも役立てて頂けるよう、各種研修コースをご用意しております。

審査員研修コース

ISO9001:2000
・IRCA認定 IATCA基準審査員研修コース
(5日間、給付金コースは6日間)

ISO14001
・IEMA認定 審査員研修コース
(5日間、給付金コースは6日間)

【開催地】 東京・大阪

内部監査員研修コース

ISO9001:2000 (2日間)

ISO14001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪

～ 受講生からのお便り ～

ISO との出会いとその効果

品質(2002年2月)・環境審査員コース(2004年2月)受講
徳島県鳴門市 MIC契約審査員 阿部 房次

私は以前、鉄鋼業を主な顧客とする冷間ロール成形設備の設計製作会社N製作所(大阪)に勤務しておりました。経営トップからISO9001認証取得の業務を承り、02年2月にMICでISO9001審査員コースを受講しました。その後管理責任者として、難解なISO9001規格要求事項と格闘しながら品質マネジメントシステム確立と各種文書作成を手がけ、経営者のISO9001取得宣言から6ヶ月間で認証取得することが出来ました。本審査及び維持審査をMIC殿にいただきましたが、“小規模企業に付加価値をもたらす審査”のお陰で、その後も品質マネジメントシステムが継続的に改善されており、ISO9001取得による海外へのビジネスチャンス拡大効果も認められます。

個人的には、認証取得活動中に、IRCA審査員補に登録することが出来、現在、ISO9001でMIC審査員契約活動中です。さらに、今年2月には雇用保険の教育訓練給付金制度を利用して、ISO14001審査員コースをMIC大阪で受講しました。現在、IEMA審査員補申請中ですが、審査員コース受講後地球環境問題に非常に興味が沸き、近くの鳴門教育大学及び鳴門市の図書館に通って勉強をしております。

還暦はもう少し先ですが、私にとってISOとの出会いは頭の若さを保つための最高の喜びです。親から子孫への預かり物である地球の自然環境を守りつつ、審査活動を通じてこれからQMS、EMSの取得を目指す企業の皆様のお役に立ちたいものだと考えております。

お知らせ

東京・大阪事務所に
無料セミナー好評開催中！
詳細はお問合せ下さい。
()

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社

<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋Nビル 4F

TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410

E-mail:mi-certification@moodygroup.co.jp

大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13階

TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575

E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp